

あけましておめでとうございます。東京は暖かく穏やかな年明けとなりました。皆様のお正月はいかがでしたか。今年一年の目標を立てたり新しい事を始める決意をするなど、様々な思いを抱く時期。実り多き年になるよう当社の目標は「即行動」となりました。合言葉は「すぐやる！」。

後藤健太より

改めまして、新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。妻の後藤紅仁子が昨年7月に入社して半年、社内の環境がみるみるうちに整ってきて6期目にしてようやく会社らしくなって参りました。

環境整備と言え、通信会社を地元のケーブルテレビから某通信会社に変更したところ、

電話番号は変更になったものの通信環境は大変快適になり通信費も安くなりました。こうして社内の環境を少しずつでも整えていくと不思議と事業推進に対するパワーがみなぎってくる気がして参ります。

一日の大半の時間を過ごすことになる職場。仕事の時間を快適かつ有意義に過ごすことが

できれば人生はさらにより良いものになると考える当社では、昨年環境コンサルティング事業を開始しました。水、空気、土壌等の我々人間が営みを行う場を浄化することでいい会社づくりに、ひいてはいい社会づくりに貢献できればと願っております。

本年も宜しくお願い致します。(太)

急速凍結技術を用いた商品開発のご提案

旬の最も美味しい状態の食材を、年間を通して安定供給する。そのために新鮮な食材を新鮮なまま凍結する。そんな夢みみたいな技術は近年わりと一般的になってきました。しかしながら、鮮度を保つという事は高品質凍結の一側面に過ぎないと元料理人の私は考えます。

江戸前寿司の江戸前には2つの意味があることはご存知でしょうか。一つは江戸前(東京湾)の「食材」、もう一つは江戸前の「仕事」です。従来の高品質凍結が「鮮度の延伸」だとしたら私の考える高品質凍結は「食材の下拵えしたごしら」であり、これを「超低温調理」と名付けました。この工程を経ることでより美味しく、且つ安全性を高めることが出来ます。江戸前の粋を食べるとは職人の下拵えの時間を食べることであります。あたかもインスタントのように見えて熟練の味、そんなことを超低温調理は実現できます。試してみたい食材をお持ちの方、新商品の開発をお考えの方はご相談ください。(太)

「この世は生きるに値する」

映画監督の宮崎駿氏の言葉です。数年前の引退会見で、自身が作る映画を通して「この世は生きるに値する」ことを若い人達に伝えたかったと仰っていました。私は当時この言葉に心揺さぶられ、単純に感動していました。

「夢を持つ」と仰る方がおられますが、夢を持つにはまず生きるエネルギーが必要であると感

じます。生きるエネルギーがあるからこそ、心弾むような夢を描いたり、描いた夢に向かって歩むことが出来るのではないかと思います。全ての人が「この世は生きるに値する」と感じ、自身が描く夢に向かって学んだり働いたり出来るような社会を作って行かなければと、宮崎氏のこの言葉を思い返しながらか、改めて感じています。(仁)

ようこそ太仁亭 (tajin - tei) へ!

記念すべき新年最初のレシピは、納豆です。混ぜるだけで簡単に済ませられる納豆ですが、今号でご紹介するのはその名も「ごちそう納豆」！前号でご紹介した麴の調味料を使うので、添えられたタレを混ぜるだけでは味わえないごちそう感があります。

太仁亭で使っている納豆は近所にあるOKストアオリジナルのタレなし50g入り。4パックセットで税別62円というお買い得な納豆。この納豆に加える葉物野菜は、ほうれん草や小松菜の他に大根やカブの葉、海藻でも美味しいです。全ての材料はお好みで加減して、是非各ご家庭の「ごちそう」に仕上げてください。(仁)

☆ごちそう納豆☆

材 料

- ・納豆50g×2パック
- ・葉物野菜:3株程度(下茹でて細かく刻む)
- ・醤油ひしよ麴(醬や三升漬でもOK) 小さじ3
- ・ごま油 小さじ2
- ・かつお節 10g
- ・白ごま, 小エビ, 青のり(それぞれお好み量)
- ・その他お好みで(シラス, からし等)

作り方

1. 納豆をよく混ぜる
2. 1に葉物野菜と調味料を加える
3. 温かいご飯に乗せて召し上がれ!

今月のお豆ちゃん

12月半ばのこと、「里山探検隊」の活動に参加して参りました。多摩地区の里山で大人も子供も外遊びを満喫しようという市民グループの活動です。兼ねてよりデンマーク発祥の「森のようちえん」に興味があり、3歳になったら通わせたいと思っていましたが、仕事を持っているとやはり保育園に通わせないと成り立たないという事に気付きました。そこで、週末だけ活動してる里山探検隊に参加。お豆ちゃんはまだ2歳なのに自分の足でよく歩き、枯草や枯葉、氷の張った水溜まり等々沢山の「冬」を満喫していました。(仁)



今年もどうぞよろしく

見出しの写真は小野路のくろやまで見つけた野兎の糞。「糞」という字は「米が異なる」と書くんですね。なるほどと思って少し調べてみたところ、漢字の成り立ちは全く違うそうです。ちり取りを持ってちりを取り除く様子を表した会意文字だそうです。後に現在使われている汚物の意味になったとか。そもそもの意味は掃除をしている様子であり、汚物ではなかったことに驚きました。(仁)

編集者：後藤紅仁子

kuniko-goto@ccore.co.jp

発行日：2018.1.1 冬至(とうじ)

雪下出版(ゆきくだりてむぎのびる)

発行所：株式会社コンセプト・コア

☎192-0373

八王子市上柚木 2-63-10

変更→TEL/FAX 042-697-7473

http://ccore.co.jp/

過去号：ウェブサイト↑からご覧頂けます。